

名前(芳村梨奈)

【APPS 報告レポート】

【参加国際会議の概要】

APPS(Asia Pacific Pharmaceutical Symposium)とは、アジア太平洋薬学生シンポジウムのことで、年に一度開催される 400 人以上のアジアの薬学生が集まるイベントです。国際薬学生連盟 IPSF(International Pharmaceutical Students' Federation)という世界の薬学生の集う国際組織があります。各地域ごとに支部があり、そのうちアジア支部 APRO(Asia Pacific Regional Office)において毎年開催されているのがこのアジアの薬学生の国際会議(APPS)です。2001 年の第 1 回 APPS はシンガポールで開催され、今年度で 14 回目の開催になります。今年度はタイのパタヤで開催されました。

主に日中には真面目なシンポジウムやワークショップ、夜はテーマに沿ったパーティーが開催されました。ワークショップでは、タイオイル作り、タイのハーブなど実際に体感することでタイの医療に触れたり、講師のお話を聞き各国の違いについて議論を行ったりと、様々なプログラムがありました。また夜には、各国の衣装をお披露目し、アジアの国々の踊りや食べ物を味わった「インターナショナルナイト」、タイの伝統料理や文化を楽しんだ「タイナイト」などが開催されました。

日中は勉学、夜は娯楽と充実し、さらに参加者全員が「薬学生」という共通背景から参加者同士が絆を深めやすい場だったと思います。また、例年開催することもあり、次年度の APPS で参加者同士が再び集まる機会があることも魅力です。一番魅かれたは、なんといっても「輪」を大切にしているところです。アジア会議ではグループ制度があり、参加者を複数のグループに分け、グループ単位で活動を行う方式です。グループで活動することで距離が縮まり仲良くなれます。

【参加を決めた動機】

有難うございました◎
cp@apsjapan.org まで提出してください。

私が今回の参加を決めたのは、日本の医療や文化を海外に発信してみたいという思いがあったからです。日頃から日常英会話だけではなく医療の話もできるよう努力したことがどこまで通用するか試してみたいという気持ちがありました。また、アジアの薬学生はどんなことを考えているのか、日本の制度とはどう違うのかに興味があり、様々な国の薬学生と意見交換をしたいと思い参加を決めました。

【印象に残ったプログラムについて】

[PCE(Patient Counselling Event)]

PCE(Patient Counselling Event)とは英語での服薬指導を競うイベントです。PCE は Beginner と advanced の 2 つのレベルで行われました。Beginner レベルはいかに項目を満たしているかがポイントとなり、Advanced レベルでは薬学的専門知識まで問われます。今年は Beginner の PCE の参加希望者が多く、選ばれた 16 名のみ PCE に挑戦することができました。各レベルの上位 3 名がファイナルに進み、最終日に全体の前で行われました。

PCE への挑戦は今回の APPS で最も印象に残っています。PCE の前日に症例がメールで送られ、そこからの準備です。4 年前期の事前実務実習で情報収集・情報提供で言うべきことを学んだものの、英語となると自信がなくとても緊張しました。PCE では終わったあとにすぐにフィードバックがもらえるのが良いところだと思います。自分の思うような結果は出せませんでしたが、大変貴重な経験ができました。ファイナルに残った学生の対応を見て、レベルの高さに驚きました。薬の作用について、飲んだあと起こりうる副作用、飲み忘れた場合のこと、患者に復唱してもらう、などとても詳しい説明をしていました。自分と同学年、または下の学生がここまでできると知り、もっと自分も能力を高めたいと強く思いました。なぜこんなにスキルが高いのか疑問に思い、他国の学生に聞いてみたところ、ほとんどの国では PCE が大学で年 1 回開かれるとのことでした。カナダでは 1 年次から研究室で練習するそうです。日本は低学年次に臨床に関する教育をほとんど受けないため、日本でもこのようなイベントが日本でもあったら良いと感じました。

[OTC(Over The Counter) Drug]

タイの薬局について講師の方に教えていただき、その後 OTC、薬局薬剤師の役割について各国ごとにまとめ発表するというワークショップでした。説明の中で、タイでは薬局にあまり処方箋がこないと聞き、驚きました。クリニック内でほとんど薬を調剤するからだそうです。禁煙活動やヘルスケアサービスを行っているというお話も聞くことができました。その後は国ごとに話し合ってポスター作りを行ったのですが、私はこの WS を通して他の国の英語力、プレゼンテーション能力に圧倒されました。他の国は時間内に文字がたくさん書かれた完璧なポスターに仕上げ、発表もとてもスムーズであったのに、日本は残り 5 分になってもポスターに何も書けず、発表も譲り合うばかりだったからです。意見を主張すること、英語力が他の国に比べて足りないと感じました。また、このワークショップでも良い挑戦ができました。毎回日本で発表の機会がある際には、いつも原稿を作って練習してもうまく発表できず、悔しい思いをしてきました。そんな私が日本の OTC について即興で発表することになり、不安でいっぱいでしたが、思っていたよりも的確な発表ができ、大きな自信につながりました。日本の情報として持参していた OTC の箱と貼付文書を見せると、他の国からの反響が大きく、お薬手帳についても興味を持ってもらえました。

【今回の国際会議に参加した感想】

APPS を通して最も感じたのは、他国の薬学生の積極性です。海外の学生は積極的であると聞いていたので、その中で埋もれずワークショップやグループ活動で発言するという目標を掲げました。しかし、他国の薬学生のスキルの高さは想像以上でした。APPS 期間中にグループ内で意見を出し合ってダンスやポスターを作る機会がありました。どの国の学生も率先して意見を出し、どんどん良いアイデアに変わっていく中、アクティブさに圧倒されてしまいました。自分から伝えようとしないと世界では通用しないと痛感し、私は何をやるにしてもこれまで受け身だったことが多かったのですが、APPS が主体的に考えるきっかけとなりました。

もう一点は、日本人の英語力不足です。英語が母国語でない国からきた学生がほとんどでしたが、様々

な国の学生と話す中でどの国もかなり英語力が高いという印象を持ちました。なぜ英語力が高いのか疑問に思い、聞いたところ、他国では英語が大学で頻繁に使われると知りました。タイでは英語で書かれた教科書で勉強していると聞き、また台湾でも試験が英語だそうです。母国語が英語でないのに英語での教育を受けていることに驚きました。これまで日本語で全ての講義を受けて日本語の試験を当たり前と思って受けてきましたが、APPS から帰国して、日本はなぜ英語ではないのか疑問に感じました。薬剤師になり、新しい情報を得るために英語の論文等を読みますし、日本の大学でも英語をもっと取り入れる必要があると私は思います。このように海外の薬学生と話したからこそ見えてきた新たな視点があり、参加して本当によかったと思います。

APPS を通して、今後の医療のことを真剣に話せる友達ができただけでなく大きな財産となりました。現在でも連絡を取り合っている友人が何人もいます。今回できたつながりを大切にしていきたいです。APPS で得たことを将来につなげられるよう、そしてこれからも挑戦する気持ちを忘れずに歩んでいきたいです。

【写真 2~3 枚】



Public health campaign で作成したポスターとともにグループの集合写真



タイナイトの様子

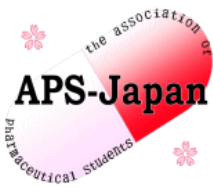


レクリエーションの様子

【今後参加される後輩へのアドバイス・メッセージ】

APPS に少しでも興味があれば是非参加してみしてほしいです。海外に行くことが初めてであったり、英語に自信がなかったりするかもしれませんが、全ては挑戦することから始まります。チャレンジ精

有難うございました◎
cp@apsjapan.org まで提出してください。



Association of Pharmaceutical Students' Japan

〒152-0013 #102 2-1-33Minami Meguro-ku Tokyo in Japan

Email:apsjapan@apsjapan.org HP: <http://apsjapan.org/>

神を忘れずに多くのことを得てきてほしいです。参加する上でのアドバイスとしては、日本の制度や文化のことをよく聞かれるので、日本のことを学んでいくと良いと思います。APPS にしかない感動を是非味わってきてください。

有難うございました◎
cp@apsjapan.org まで提出してください。